



平田オリザさん

インタビュー

世界初演がもたらす力
城崎国際アートセンターのアドバイザーで、アンドロイド版「変身」の作・演出者である平田オリザさんに尋ねました。

「城崎国際アートセンターの存在意義は。」

「演劇、ダンスといった舞台芸術に特化した施設であり、そこで制作された作品が世界中を回って、城崎、豊岡の名前を広めていくことが一番の効果です。二つ目は、アーティストが滞在中に、私たちの場合は城崎小学校に行かせてもらいましたが、地域還元事業を行うこと。三つ目は、公開リハーサルを通して、制作作品に触れられるということが挙げられます。」

「岡の人たちはただ同然で見られます」
「『城崎、豊岡で世界初演』の持つ意味は。」

「初演の場所、作った所を記すことが世界のルールとなっています。ヨーロッパではそれが大きな意味を持ち、新聞にも載って『城崎、豊岡は文化・芸術的なまちだ』と良いイメージが世界に伝わります。城崎は今もヨーロッパなどからの観光客が倍々で増えていますが、特にダンスや演劇を見に来るのは富裕層です。そういった方たちに名前が一举に浸透します。イメージ戦略としては費用対効果の高いものになります」

「ノルマンディの秋芸術祭」に、カフカの「変身」をアンドロイド版で演出する理由は。」

「海外の演劇祭や国立劇場から依頼があつて作品を作るわけですが、今回は最初からアンドロイドで作ってほしいと依頼がありました。それを前提としてどの作品をやるかと考えたときに、カフカの「変身」がもっとも好きだったことと、アンドロイドと合うのではないかと思いました」

「豊岡市民にメッセージを。」

「一番は、ぜひ制作作品を見に来ていただきたいということです。城崎国際アートセンターで世界最先端の舞台芸術に触れるということが、いろいろな意味で豊岡市民の刺激となつて、市民の側からも新しい発想とかが出てくるような役割を果たしたいと思つています」

「豊岡市内で訪れた場所などの感想を。」

「出石の永楽館では狂言を拝見しました。ここ(辰鼓楼)の前で写真を撮りました。竹野も訪れました。浜辺だけでなく、岩も何百年の浸食がなされており、とてもきれいでした。コウノトリの郷公園でコウノトリの姿を見て、自然に戻すまでの物語に感銘を受けました」



06-2

深田友紀さん(22)大4:「劇場運営」を専攻し、フランス留学経験のあることから応募。写真記録、通訳・俳優の身の回りのこと、朝食を担当しました。

インターン生として「変身」制作中、神戸から滞在 **大学生**



アンドロイド版「変身」の稽古風景。申込み不要で気軽に見学可能だった。

イレーヌ・ジャコブさん…フランスの女優。映画デビューは「さよなら子供たち」。「ふたりのペロニカ」(カンヌ国際映画祭女優賞受賞)、「トリコロール/赤の愛」などの主演



地図を見ながら (通訳: 原真理子さん)

イレーヌ・ジャコブさん

インタビュー

豊岡の地で感じたこと

フランスの国民的女優であるイレーヌ・ジャコブさんに豊岡について尋ねました。

06-3

アンドロイドのデモンストラーションに参加

中高生



かきたとしろう
 垣谷駿郎くん(12)中1 城崎町湯島:「アンドロイドを見るのは初めて。関節や口の動きがこんなに人間に近いなんてと驚きました」



たましまののが
 玉島野乃夏さん(15)高1 下陰:「表情やロボットを動かすプログラム作りがすごいなと興味深かったです。ロボット同好会に所属しています」



温泉街を散策し、まちの空気を感じる。浴衣を手に喜ぶアメリカ女性

大幸流の予感

エピソード&エピソード

外国人観光客は、まちの人に声を掛けられ、優しく接してもらえることがとてもうれしそうです。

「農村部の日本人同士でさえ声掛けが減りましたが大切なこと」と地域づくりの会・しほの小西 護さんは話します。浴衣が好きという台湾からの女性と身振り手振りで交流しました。「親切も、過剰はダメ」と城

崎温泉観光協会事務局長の駒井 司江さん。「車で送るのではなく、バス停やレンタサイクルの場所を教えて」とのこと。また「外国人は、生活感のある路地や、農村、但東にある花畑も好き」と話します。まちの人の好意で浴衣を得た方から「今度は城崎を目的に行きます」「仲間10人を連れて来ます」の声も届いています。おもてなしから、双方がとても幸せな気持ちになる「大幸流」につながります。

豊岡市長 中貝宗治



話題にしたバルテュスの絵画の少女の姿一瞬をとる

―豊岡の中でジャコブさんにとって、魅力的に写ることは。

「まずは、本当にバラエティ豊かな景色です。海、海岸がとても素敵ですし、大地から温泉が湧き上がる。まるで小さなベニスみたいですね。

そして、非常に自然な形で、例えば夜の灯りの付け方であったり伝統の守り方であったり、日々の生活をとて

大事にしていらつしゃるところです。柳もとてもきれいですね…。城崎のこうした景色に恋をしてしまったみたい。浴衣も好きです。浴衣を着て、オンセン！ 外湯も行きました。

平田さんと、この芸術を創るというプロジェクトだけではなくて、まちを発見できるとい喜びがありました」

―国際アートセンターやレジデンス活動はいかがでしたか。

「たくさんのアーティストが城崎国際アートセンターに来たいということ競争するでしょう。アーティストにとって一つの場所で作るとい環境を与えてくれることは非常に大きなことです。

その中で、さまざまな方との交流が

生まれました。とても大事なことだと思えます。小学校に何って、演劇の公開授業に私の子どもも参加させていただきました。ロボットと学生さんとの交流もあります。そうした環境が可能になるのは豊岡市民の皆さんのお力添えがあつてからこそと思います」

―豊岡市民にメッセージを。

「いろいろな音、蟬の声。老いも若きも、お腹の大きい方も一緒に入る外湯での皆さんの楽しそうな様子。出石の狂言のユーモアなどさまざまな思い出があります。皆さんのお住いのまちはとても素晴らしい所だと思えます。

ここでいただいた心からのご厚意を忘れません。豊岡の市民の皆さんとても温かい心遣いに感謝しています」

07

世界に輝く

豊岡の魅力

平成25年の城崎温泉への外国人宿泊客数は、9600人になりました。平成23年から2年間で9倍に増えました。年間1万人近い外国人を受け入れている出石そばの店もあります。

外国の方々は、何を目的にお越しになるのでしょうか。ヨーロッパやアメリカを見たいわけではありません。答えは「日本」と「豊岡」です。

豊岡市は昨年に引き続き、今年もロンドンで開かれたヨーロッパ最大の旅行博に出展しました。豊岡の魅力は十分世界に通用するとの確信を改めて得ました。

2020年の外国人宿泊客を十万人とする目標を掲げました。私たちが受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ。これを礎に豊岡の未来を切り開いてまいります。